日本女医会誌
（題字、吉岡弥生）
復刊第13号

国際女医会日本開催に備えて

佐藤やい

昨年末以来日本女医会では、マニラに於ける第九回国際女医会総会に会員諸姉を送り、また、世界各国からも多数の訪日女医をお迎えし、皆様方の御協力により国際的に医学の交流及び、国際親善のためにも日本の女医の団体として、些なりともお役を果したように思われます。

昭和三十八年は、本会としても誠に活気のあった年末年始でありました。

去る四月の医学会総会には、会員中より多数の研究発表があり、特に本会理事、関西医科大学教授大原一枝女史の如きは、日本真菌学会々長として活躍された事は、私共の誇りとするところであります。

更に、四年後に開催される次回総会には、既に日本女医会理事、東京女子医科大学放射線科、島津教授が会長として決定された事などは、男医に比して尚数少ない女医の間より、次々に各専門の立場に於て有為なる人材が学会に進出される事は、日進月歩の医学を改究する者にとっては生命であり、この上もない喜びであります。

この総会出席のため、会員諸姉が全国各地より上洛された機会を利用し、本部主催のもとに大阪府医師会館に於て懇親会を開催いたしました。地元の川那部副会長及び各役員のお骨折りにより、多数の御出席を頂き、各会員より忌弾なき御意見、御希望をうかがう事ができ、まことに有意義なひと時を過しました。既に本会会誌三月号に小野春生女史の報告にもありました通り、国際女医会は、従来四年毎に総会を開催されましたが、今後一年おきに持つ事と決定されたので、何れ近き将来にはわが国に於ても、総会開催地を引受ける時が当然来る事と信じます。

この日のためにも、私共はあらゆる場面に於て常に見解を広め、開催準備その他について、充分考えて置かねばならぬことを切に感じます。

御承知のように、近年は世界各国から相ついで訪日外人客の多い現情よりいたしても名実共に総会出席の皆様に御満足を与え、且つまた、私共日本女医の権威のためにも、指導者でありたいものと心から希う次第であります。

日本女医会の古き伝統を思い、年毎に躍進しつつある日本女医の将来を考え合せ、一層この自覚と責任を痛感いたします。（三八・五・十一記）

日本女医会懇親会

福島信子

四月一日、医学会総会色のあふれる大阪の街で、ご上阪の会員と地元の会員との和やかな交歓の一刻を持つことができました。前もって開会式の行われた体育館そのほかの総会々場へ、ご案内のはり紙は出しておいたものの、どの程度の集りが持てるか見当がつかず、一寸不安でございましたが、会場の大阪府医師会館の一室に用意した約七〇人の席がほぼ満員になる盛会ぶりでございました。小野春生先生のご紹介で、フィリッピンの女医さんお二人の飛入りのお客様もあって、予想外に充実した会となりました。

まず、地元の川那部副会長が歓迎のことばを述べられ、つづいて佐藤会長のご挨拶があり大村先生の司会で小野先生の次回国際女医会についてのお話を皮切りに、次々とお話が弾みました。

龍先生お骨折りの鶴風会の肢体不自由児収容施設建設のご苦心談を伺い、出席者一同心ばかりの寄付をさせていただいたり、参議員議員の山本杉先生のお話を伺ったり、フィリッピンの女医さんの挨拶を小野先生が通訳なさったり、地元の橋本さんの発言で、一同一寸緊張する一幕もあったりして、仲々盛沢山なことでございました。お茶をいただきながらのお話は尽きず、予定の時間はまたたく間に過ぎてしまいフィリッピンの国際女医会でお世話になった女医さんにささやかな贈物を差上げ、龍先生のご挨拶で会を閉じたのは五時近くでございました。

日本全国の会員がより集る機会はなかなかございませんので、大阪でこんな会を持てたことは大変有意義だったと存じますが、地方支部の方々のご出席が少くて、地方の面白い話題を伺えなかったことが残念でございました。も少し早目に計画して会員全部に周知させられたらと、いい機会であっただけに惜しまれます。

地元としては、本部の先生方に地元の会員の気持もわかっていただき、又東京でのご活躍の様子も聞かせていただいて益するところ大でございました。今後も機会あるごとにこんな集りを持ちたいものでございます。

科学者として血の通つた施設を

龍知恵子

みなさまますますお元気にてご活躍のこととおよろこび申し上げおります。

先般大阪支部にて開催されました日本女医会懇親会の席上、みなさま方からの暖かいご寄附を頂戴いたしまして、まことにありがとうございました。おかげさまで社会福祉法人鶴風会療育園（学令期までの幼少肢体不自由児施設）建設事業もやっと軌道にのってまいりました。去る三月二十日大蔵省より国有地五千余坪の払い下げを受け、六月には約二億円の工費で建築に着工いたし、明年二月に完成の予定でございます。世界の子供は皆平等に幸福になれる権利をもって生れ出ているのでございます。児童憲章は「すべての児童は身体の不自由な場合、または精神の機能が不完全な場合には適切な

治療と教育と保護があたえられる。」とうたっております。しかし日本における社会福祉対策、特に幼少肢体不自由児対策はもっとも遅れてるのが現状でございます。全国にまだ一つも専門の施設がなく、そのため治療効果のあがる重大なこの時期に加療の機会があたえられないまま、幾多の家庭悲劇、社会悲劇を生み出しております。私どもが、この事業を計画いたしましたのは、今から四年前でございます。同窓生のうちで社会事業に深い関心をもち、協力を契いあったものが中心となり、女医として持つ医学の力、家庭婦人としてまた母親としての経験と愛情を結集して、この事業を行うことに決意いたしました。それから今日まで、思えば辛い苦しい年月でありました。ご寄附のお願いに、役所との接渉に陳情に、それでも一歩一歩と歩んでまいりました。幸い財界、政界、官界の方々が私どもの事業に深くご共鳴くださいまして積極的に応接して下さり、また多くの存じあげない方々、在日米軍の有志の方々から胸のつまりますようなありがたい激励の言葉、ご寄附をいただき、みなさまの善意に勇気ずけられ着工の日までまいりました。

療育園の概要は

㈠建設地は東京都北多摩郡村山町中藤（国電立川駅より車にて十五分）

㈡収容人員、八十余名（第二期工事で約三百名までにする）

㈢対象、特に脳性小児マヒの幼少肢体不自由児

㈣建築規模、本館―鉄筋二階、地階、病棟―鉄筋平家、宿舎―鉄筋三階暖冷房

㈤総建坪数、約一三〇〇坪

㈥総建築費、約二億円

以上でございます。私どもは一般の施設とちがった、女医として誇れるもの、また日本のモデルケースとしての療育園を目指しております。そしてただ幼児の治療を行うだけでなく、いまだ原因不明の脳性マヒの原因究明も同時に行うために「脳性マヒ研究所」の設立も計画いたしております。医学にたずさわる者の経営する療育園は、やはり研究面のしっかりした特色のあるものにしたい、この願いは発足の当初からもっておりました。療育園の方も明るい見通しがついてまいりましたので、研究所設立も今後積極的に推進いたしたいと存じます。研究所につきましては、現在母校の塚田祐三教授が中心となられて、その道の権威者、関係官庁と連絡をとりながら着々と進めておられます。このほか脳性マヒの原因究明の第一歩といたしまして、幼児に対する実態調査を行っております。現在幼少肢体不自児の実態は把握されておりません。国においてもその必要性を認めながらも、莫大な費用、調査の困難性の為に実施しておりませんでした。厚生省も女医である私どもであれば、この困難な調査も可能ではないかと全面協力を約して下さっております。まず第一段階といたしまして、東京都の卒業生に呼びかけてその患者もしくは知人のうちで昭和三十六年以降に出産した乳幼児を対象に事例調査を行っております。

以上のように私どもは科学者としてまた母として、不幸な子供を一人でも救うためにこの困難な事業を一日も早く完成いたしたいと日夜努力いたしております。どうぞ今後共みなさま方の積極的なご指導、ご支援を頂きたくお願い申し上げます。三八・四・三〇記

第八回日本女医会総会並懇親会案内

日本女医会総会並新卒新入会員歓迎

日時…六月十六日（日）午後二時―四時

場所…東京女子医科大学新講堂（都電河田町下車）

日本女医会懇親会

日時…六月十六日（日）午後七時より

場所…箱根芦の湯温泉（松坂屋旅館・電話箱根③局六五一一）

会費…四五〇〇円（一泊二食付並往道交通費を含む）

六月十七日（月）午前十時頃解散となり御希望により、初夏の山々の観光コースを選び、行楽には好い機会と存じます。各地方会員の方々も、ふるって大勢御参加下さい。なお総会の出欠席の返信を大至急お願いいたします。

総会開催地のことに関して

佐堂トキ

新緑さわやかな若緑から、したたるような濃い緑に包まれ始めた今日此頃皆々様御変りなく御はげみのことと御喜び申上げます。

待ちに待った総会も間もなく開かれる時機となりました。その折りには色々の希望を、あるいは慎懣を御持ちになって下さい。そして日本女医会を堅実なものに育てて下さい。その上私達の頼りになる温床となって憩いの住み家にもなるよう育てて行き度いと願っています。ある地方からの希望ですが、総会を地域別に移動して開催したいねを寄せられました。この発案は大変うるおいのある楽しい計画として取り上げ度いのですが、それには種々な条件が含まれております。第一、大人数の宿舎の点。第二、観光地のあっせんの労、第三、第四、と色々御骨折りが出てくることでございましょう。それ等の点を検討の上御引受け下さる地域は、この次の総会で御申出で下さいますよう御願い致します。そして東京を中心とした近県ばかりでなくとも、北陸の地、九州にて、北海道にて、奥羽にて、その他多くの地域で次ぎ次ぎと催されることも、とても楽しいことと思います。かつて大阪で日本女医会が盛大に行われました時のように……。

次ぎの総会まで間に合いません時は余り遅くならないよう適当な時機に御申出で下さい。それを理事会にかけて決定するようにしたいと思います。地方におられる支部の皆様の許に訪れることはとても楽しいことでございます。是非実現したいものと望みを持ってこの稿を終ります。

日本女医会のあり方

小野春生

マニラ国際女医会総会に出席されるため日本へ立よった外国女医は百名を越えました。又その後、フィリッピン女医会からも二名来日、日本女医会としていろいろとお世話致しました。突然の場合ばかりであらかじめ会員全部の皆様に御通知するわけには行かず、本当に申しわけないと存じます。このような時は佐藤会長、副会長、理事、国際女医会参加会員及び本部でわかっております範囲で外国語を通訳して下される会員の方に出席していただきま

た。交通の便がよくなるにつれ、ますます来客が多くなることでしょう。そこで渉外部を作ったらどうかということになり、常任理事が佐野アヤ子氏、山崎倫子氏、宮田ユキ氏、竹内富美子氏、服山公江氏、堀内敏子氏、調所水浜氏、と懇談会を致しました。

ここで私個人の考えを少し述べさせていただき、皆様の御指導、御意見をうかがわせていただきたいと存じます。あいにく私が国際連絡書記を致しておりますので国際的な事ばかり申しておりますが、本当の事を申しますと国際的なことは日本女医会のほんの一部であって、もっともっと日本女医会は日本の女医のための会であるべきではないでしょうか。今までは対外的な事が多く外交ばかりで手がいっぱいという感じがしましたが、二度も国際会議に出席させていただき余裕ができましたので、この度は日本女医会の本来の国内的にもっと充実した会になるようにしたいと存じます。それには会員全員が協力して自分の会をもっと発展するように力を合わせていただきたいと思います。会費未納の会員がいらっしゃいます。それはなぜ未納なのでしょう。もち論、中には御多忙のため会費を納めるのを忘れているかたもあるでしょう。自分の会であり、会の一員であることがほこりとなるような会であれば、忘れるような事はないと思います。それには会員一人一人が協力して会を作り上げる必要があると存じます。外国では皆が奉仕をして会を作っています。私共の会でもそうありたいものです。奉仕と申しましても一人一人の会員が自分が一番したい形で奉仕をしたらいかがかと存じます。たとえば若い会員は時間なら何とか融通がつく方、外国語ができる方、又外国語はできなくとも外人客のパーティーへ出席する方、その反面人様と逢うのはいやなひっこみじあんな方で書きものなら、又は立派でなくともお部屋を会合にかして下さる方、車なら用いてない時にかして下さる方、講演ならひまがあればして下さる方、会費の催促をして下さる方、又とてもいそがしくて肉体的に手伝えないがお金なら寄付して下さる方、といろいろいらっしゃるでしょう。もち論無理な事を申すわけではございません。奉仕ですから少しは犠牲をはらわねばなりませんが、各々が一番したい事をして協力をするなら大して苦にならないと存じます。若い方なら映画をするとか歌の会のお手伝ならとおっしゃいますでしょう。この反面皆様が会から何を一番望んでいるかを具体的に伺わせていただきたいと存じます。たとえば若い先生はアルバイトの世話をしてもらいたい、開業していらっしゃる先生は休日を取りたいがかわりの医者がほしいとか、手伝ってもらいたいとか、結婚して家庭におられる方は子供が学校から帰るまでの時間ならお手伝いに行ってもよいとか、もっと大先生に講演なり指導をしてもらいたい、もっと患者の検査をしたい。社交的にただ逢ってお話をしたいとかいろいろお望があると思いますので、一つアンケートを取ってみたいと存じますが、皆様に御協力していただけますでしょうか。いろいろと部を作り皆で力を合せればもっと立派な会になり、ああ会員であってよかったと思うようなプライドがもてる会になっていくのではないでしょうか。どうか皆様の御意見をうかがわせていただきたいと存じます。

会の経済に大きな役割を果すとは？

人それぞれが充分なる深慮の末に発言するであろう言葉であってさえ、言うは易うして、行いは難い、とは千古不易の諺であるらしいが、しかし不言実行という文句もあるにはある。

会員の会費が唯一の収入元であるわが日本女医会の会費徴収問題についても同じことがくりかえされている。

本年もまた総会において、会費納入率が全会員の40％とか50％とかという低率さであり、従って四苦八苦の会計状態であるという報告がされることになる。

熱心に耳を傾けている会員からはまず第一に会費の徴収方法について……という協力的な発言がある。次で他から「会費をよろこんで拠出したいような魅力が会にないから不払いになる……」というかと思うと「個人として自分から会員になった以上会費を出すことに吝かな筈はない、があの会、この会とあまりにも加入している会が多いために会費払込みを忘れている人が数多くあるにちがいないからこの人達のために何んとかよい方法を考えては……」と三者三様それぞれに至極もっともな意見である。理事の一人としていつも有難く傾聴する。

そこで第一の提案に対して、集金という方法も都内ならば昔日のように復活したが全国的には未だ不可能である、その上集金方法はその一割の手数料がかかる。

ゆえに毎度のことながらできるだけ地方地方で支部長さんにお願いして支部会のお集りの時に集めていただいて送金していただくのが最もよい方法。従って会費未納者氏名を本人にはもち論のことながら、一応支部長にも御知らせしておくことにする。

第二の会の魅力云々について、いかにささいなことを仕様にも、徒手空拳では何事もでき得ない。たとえば講師を頼むにしてもただではたのめぬ。一人一人が集ってできている会で資産は皆無である。事を始める元金たる会費を先に集めなければならないことである。

第三の払込みを忘れている人達に対するの件、これは日常多忙をきわめている職業柄未払者の大部分がこの域にあると思う。

そこで会費納入を忘れがちという諸姉にこの際ぜひお願いしたいのが、十カ年分の会費前払い方法である。これで会費徴収不調が解決できれば魅力的な会としての運営ができることになる。昨年総会席上でこの前払い方法を提案したところ即坐に賛成して払込んで下さった方があった。それから引きつづいて賛同の方々があり昨三十七年度中に左記の諸姉から前払込みを受けた御氏名を列挙して謝意とする。

ここに謝意という文字を使ったのにはまた大いに理由がある。十年間分の会費壱万円は一年間に千円の利子を生んでくれるので、これが不足がちの会の経済に大きな役割を果してくれるからである。

この十年間の前払いは決して全員になどと無理にお願いする理ではない。が忘れるほどお忙がしい方々にはぜひ御協力願い度いのである。

会費十年分前納者氏名

ミシガン大学　定方亀代
日本医学校　土倉恒
名古屋市立大　渡辺佐和
加多乃会
川那部喜美子　森千鶴
藤村ナミ　福島信子
大原一枚　丸山フミ
牧野夫佐子　山口三重

西田富美　野呂幸枝
橋本恵美子　松井とし
黒田幽香子　中田美奈子
岡本幸子
鶴風会
龍知恵子　永山美枝
徳永恵子　森田キヨ
岸直枝　小俣喜久子
上田はる　鈴木文子
石川きみ子　三浦道子
上田葉　臼井潔子
森川房子　中川富士
至誠会
三輪田繁子　福田幹
吉岡ふさ　田辺かすみ
元田なおゑ　野見山和子
伊藤かほ　佐藤やい
牧野操子　三神美和
佐藤イクヨ　延島秀子
森川みどり　中西清子
花岡常子　大村ひさゑ
登戸美代治　阿部秀世
木原敏子　岡崎豊子
仁尾千枝子　秋場ミキ
古屋嘉子　作田静子
井上幸子　今井久子
岡本和子　飯沼さち子
津田露　中村酉子
宮城島英子　吉岡敏子
小野春生　本橋シヅ子
長山トシ

会費五年分前納者氏名

加多乃会
倉八千代　真鍋綏子
鶴風会　坂梨ミチ
至誠会　本多ちよ
跡見一子　山崎倫子

第九回国際女医会に出席して

森川みどり

マニラにおける国際女医会は徹頭徹尾リズミカルに国賓待遇をもって終止一貫され、フィリッピンの女医会の統制ある国際的な社交性には敬服いたしました。女医になるためには特待生の資格がなければ入学を許可されないと

(国際女医会々長デルモンド女史(

できないことを恥かしく思います。携品帯その他国際的マナー等についてはプリントしたものにて不明の点を解明して頂く程度に止めたいと思います。

小数の大地主、権力者の豪壮な邸宅と一般大衆の戦後そのままのようなバラックやニッパハウス、数台の高級車を邸内に構えた生活に対して跳足と街に氾濫しているジプニーの粗末な交通機関、広大な国立フィリッピン大学は門から講堂まで三十分もかかりそうで自家用車でもなければ通学はおぼつか無いと思われる一方、街では私は一軒の書店も見受けませんでした。豪華なマニラホテルに連る立派な舗道の側面の芝生には紙屑が散ってスペインがマニラ占有時築いた大旧城塞イントレムロスは残骸を残している情景を見聞させて頂いて、すべてがはなはだしいアンバランスの上に立っている感を深くしましたなお社会福祉的施設は申すに及ばず児童のための遊び場一つ見出せない隣国のために、今後日本女医会による善意ある活動がなされる時になん等かのアドバイスをさせて頂く機会のあらんことを願って所感とさせて頂きます。

という選ばれた優秀な人達であることも肯かれますが、今度の会議のために数年前から繰返し会合が持たれ、各分野にわたって綿密な検討がなされた賜と学ぶことが多々ございました。ひるがえって参加団の一員として自らを省みる時日本女医会としての格調高い印象を刻むためには出発に当ってもっと充分に団体としての行動についての注意指導、各自のスケジュールについてもある程度の統制を持つ必要があるのではないかと感じました。前後二回国際女医会に出席させて頂いて前回より団体行動において進歩があったと御報告

タイ国に招かれて

延島秀子

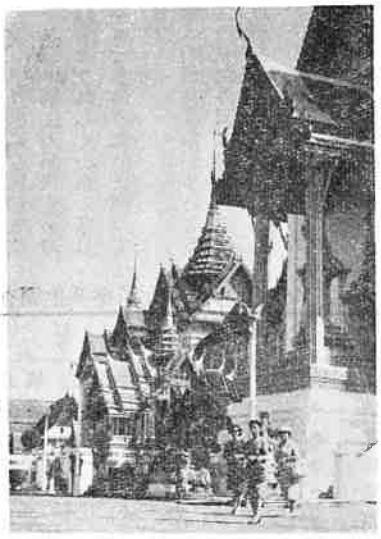
昭和三十七年十二月二十九日から一月七日までの国際女医学会を同行十八名の方々の御好意に包まれて無事終了一月七日仁尾千枝子様と二人小野団長に見送られてマニラ空港をスカンヂナビア機で一路滞日留学生の家族の待つバンコックへ向いました。途中きわめて快適、三時間後には仏教の都、特色ある寺院の屋根が見えるバンコックに着きました。気候は大体マニラと同様、朝夕はセーターが必要、寝具も毛布二枚では少し寒い位です。タイ国は目下戒厳令が布かれており、空港内での撮影は禁止されて、街の所々に騎馬兵の姿が見られ、現在の日本人には一寸異様な思い出を呼び起させます。香り高いカトレアの花、美しいレイを手に、日留学生、留学生の家族大勢に迎えられ晴がましいバンコック入りです。

タイ国滞在中の保護をお願いするために大使館を訪問しました。タイ国は後進国という観念をもつ私の目にはバンコックはそんなものでない立派な街で道路も広く清潔なのにおどろいた次第です。常に箒と塵取りをもった清掃夫が街を廻ってごみを拾っております。東京と異り人間の数も自動車の数も少く、列をつくって交通整理の警官の指示を待つような事がないのにホッとしました。ここはすべての値段にかけ値をつけますので、定価の表示してないものを求める時、タキシーにのる時まけさせる事を知らないと大変損をします、私は幸にも知人園田梅子女史が車で買物に同行してくれましたのでその被害は受けませんでした。

それから日本からの紹介状で施設の見学に移りました。まずノンブリの国立結核療養所にいきました。ここは清瀬の国立東京療養所から胸部手術及び麻酔の指導に小野、古賀両博士が参り、ここからも東京療養所へ勉強に来られた医師もあり、この方と温厚そうな婦長に院内を案内してもらいました。べ

ピモン氏夫人
ピモン・ハタジス氏
（令弟海軍々医）
筆者
遠藤ニバー様（旧ハタジス藤子様）

変多かった由ですが、「ツ」反応や「BCG」の普及により減少して来ました。しかし、支那人ことに貧民街では大勢雑居し不潔なのでまだまだ多いそうです。医師は日本にも勉強にきますが看護婦はみな米国、英国、オーストラリヤに留学し日本には一人も参りません。ここでも日本語が厚い壁となっているようです。次に国立熱帯病研究所を見学。現在増築整備の途上にありましたがなかなか立派な建物で日本のガン・センターを思わせます。所長夫人の女医チャムロンが所内を案内説明してくれましたが当研究所は教育及び研究と臨床との二部門に別れていて医師になった人が第一部門の教育のところで六カ月間教育されてから研究に入ります。ここではフィラリヤ、肺ジストマ、リケッチヤ、マラリヤ、アンキロストマ日本住血吸虫その他寄生虫についてその病源の所在、生態を調べこれに対する治療方針を研究しております。野口英世博士の写真も掲げられその業蹟が賞讃されておりました。目下入院患者は二〇名、日本からドクターヤスラオカ（安良岡？氏）がコロンボプランで来ておられた由です。建物が大きく立派なのに設備が不充分のようですし人員がきわめて少く誠にもっ体ないような気がいたしました。



王宮見学
仁尾千枝子様
延島　秀子
園田梅子様（タイ人）

次に国立の精薄児収容施設を見学しましたが、五カ年計画で建築をはじめ二年目になります。所長及び同夫人が所内を案内してくれました。所長夫人パリット・ダスナンジェリは帝国女子医専の卒業生でしたので大変なつかしがって忘れかけた日本語で説明してくれました。ここは知能指数七〇以下のもの男子のみ百名寄宿舎に収容し、起床洗面から、更衣に至るまでの生活指導、治療、一般教育、職業教育をやっていますが職員の手が不足で、工作指導には大学工学部の学生が奉仕しておりますし、生活指導は看護婦がやっていました。女児は通学で五～六名職業指導をうけており、治療に日本の薬品が使われ効果を挙げている由をうかがい心強さを感じました。日本で見ることのできなかったモンゴーリスムスも三人ほど見せて頂きました。精薄の原因やはり日本と同様ですが支那人とタイ人との混血児に多いそうです。最後にタイ国女医会長ピエン女史の御招待で女史の関係しておられる売春婦収容所、孤児収容所、肢体不自由児の施設を見学しました。売春禁止法のしかれているこの国に若いのは十三才から収容されているのを見て驚いた次第です。キレイに足をあらわせるために悪質なものはメナム川の向側に島流しの形で収容しております。そこで鍼針を刺したり機を織ったり、中には土工のような重労働をしているものもおりました。性質のよいものはここで子供を産み時間を定めて作業の間に子供を育てていました。女史は六十二才の今日まで独身でこのお仕事に打込まれた功績により今回米国政府から最高の勲章を授与されました。なお女史個人でも孤児の収容所を経営しておられますが、オーストラリアの若い女性が一人献身奉仕されている姿は誠に尊く美しく見られました。収容児は混血児が多くフランスへ一人、オーストラリヤへ一人留学させています。第三番目は日本へぜひお願いしたいとの事でしたので帰国後考慮する旨を約してきました。

以上視察の間に第一目的である滞日留学生の家庭訪問をしましたが、どちらへ行っても一家を挙げて歓迎して下さり毎日昼食、お茶、夕食と御馳走ぜめで少し辟易しました。

日本女子大学の幼稚園で研究していた保母ワンペン嬢の勤務する幼稚園を訪問し、その保育振りを見学しましたが、子供達が外来者を珍しがり集って来て色々やって見せてくれました。日本の炭坑節をおどって見せられたのにはおどろきました。それに英語の教科書を用いて教えたり会話を教えていることです。このころから英語を教えれば上達することは請合いです。

船で二時間ノンブリーに家庭訪問した時は、支那系の大きなお母様に感激の余り抱き付かれたのには面喰い又純支那料理で責め立てられ之又面喰いました。その帰り途で某高官の家庭にお茶の招待をうけましたが、御主人自ら自家用車でバンコック中で求められるあらゆる珍しい果物とお菓子を集めて御馳走して下さった事はその御好意に胸のあつくなる思いがいたしました。

更に現在タイ国で要職につかれている方や活躍中の方で旧日本留学生の方々と歓談しましたが、この席上に東京女子医専卒業のハタジツ藤子様が御主人様、御妹様御夫妻と出席されましたので、おなつかしい一時を過しました。ハタジツ様は日本人遠藤氏と結婚され御主人は乾商会のバンコック支店を管理しておられます。お二人の御嬢様のお母様でありナコン・ロードで婦人科を開業しておられます。帰国後同窓会名簿をお送りいたしました。同窓の皆様に呉々もよろしくと申されました。又日本語学校を訪問して日本女性の活躍振りをみてきました。こうした滞在中に中学一年の男子一、高校三年の女子一、大学留学生三名が両親をたずねて来られ滞日中の保証人を依頼さ

れましたので中学一年生のお父様に、なぜこんな小さい方を遠くへ離すのですかと尋ねましたところ「現在のままタイ国で成長したら惰け者になるでしょう、今から日本へやって日本の勤勉な精神を植付け、立派な人間に育て度い。」とはなしておりましたがこんなところにタイの国柄が判るような気がしました。

この忙しいスケジュールをさいて大理石寺院、エメラルド寺院、王宮を訪ね建築物の立派なのに目を見張り、町中至るところに見られる柿色の法衣をまとった僧侶に仏教国の姿を見、又トムブリーの暁の塔では映画「あの橋の畔で」を思い出し、エメラルド寺院の軒に下っている何百もの風鈴の妙なる音に頭の中を清め更にバンパインに遊び離宮（純支那風と純フランス風の二種）とその風景の美しさには全く心を奪われました。アユチャ見物の途中旧日本人街跡に立ち山田長政の昔を偲びましたが、今はただ名のみにて何もありません。サイン帳を見て訪なう人は日本人ばかり淋しい限りです。十二日は日本のボクシングの原田選手を迎えて試合がありましたが、日本では一寸想像のつかないような観客の荒れ方でした。負けてなお元気な原田を異境で励まして上げました。最後に名物の水上マーケットを見物にメナム川を遡り、途中白衣の尼僧の寺を見、キングの御座船を見物、ピエン女史を中食に御招待しましたところお刺身と天ぷらに御満悦でした。そして二十日ビザが切れるので心を残して冷え冷えとしたバンコック空港を午前三時カトレヤの花に送られて立ち香港、台北を経由午後八時順風にのって楽しかった旅を終りました。

この旅を通して終始皆様の温情に包まれ楽しかった事を感謝いたしております。ことに対日感情を云々されたマニラで一度も不快な事に会わなかった事はデルモンド会長の並々ならぬ御心遣があった事を推察し深く感謝し敬意を表する次第です。

フィリッピン、タイ共に女医の地位が高く評価され且つ御主人が快く協力して下さった事をうれしく心強く感じました。日本もそうありたいと願っております。

日本では婦人の海外視察が少いようですが、女性の見た外国は男子のそれとは違った点があると思いますし、親善には女性の方が効果の挙る時もあると思いますので是非一人でも多くの方が適当な機会をつかんで海外に出られ外国を見、又外から日本を振返って見られる事をおすすめいたします。それにしても日本人はもっと外国語ことに英語に強くならないと大変損をするということをつくづく感じました。

マニラもバンコックも気候は暑く衣類は薄くてよく、果物は美味しいし、確かに生活は楽です。しかし四季折々の変化に富んだ日本が何と申しましても一番よいところのように思われました。

以上

○全国医学部女子卒業生調査

昭和三十八年三月現在で各大学長宛に四十六校に書類を発送し、全校返信があり、総数（二四七名）という確答が得られました。

新卒業生入会者は現在四七名です。尚各支部で、本会に御入会頂きますようお勧め願います。

全国医科大学女子卒業生調査　昭和38年3月

	大学名	卒業者数	入会者数		大学名	卒業者数	入会者数
国立	北海道大学医学部	4名	1名	公立	岐阜県立医科大学	4名	
	弘前 〃 〃	4名			名古屋市立大学医学部	5名	2名
	東北 〃 〃	3名			三重県立 〃 〃	2名	
	群馬 〃 〃	1名			京都府立医科大学	5名	
	千葉 〃 〃	4名			大阪市立 〃 〃	8名	
	東京 〃 〃	4名			神戸医科大学	7名	1名
	東京医科歯科大学	1名			奈良県立医科大学	3名	
	新潟大学医学部	0			和歌山県立 〃 〃	3名	
	金沢 〃 〃	4名			山口県立 〃 〃	2名	
	信州 〃 〃	3名			鹿児島県立大学医学部	2名	
	名古屋 〃 〃	12名		私立	東京女子医科大学	56名	41名
	京都 〃 〃	3名			岩手医科大学	6名	
	岡山 〃 〃	5名			慶応大学医学部	5名	
	広島 〃 〃	5名			日本 〃 〃	4名	
	徳島 〃 〃	7名			順天堂大学 〃 〃	3名	
	九州 〃 〃	3名			東京慈恵会医科大学	10名	
	鳥取 〃 〃	2名			日本医科大学	4名	
	熊本 〃 〃	3名			昭和 〃 〃	1名	
	長崎 〃 〃	1名			東邦大学医学部	20名	
	大阪 〃 〃	5名			関西医科大学	9名	
公立	札幌医科大学	0			久留米大学医学部	2名	
	福島県立医科大学	3名			大阪医科大学	4名	2名
	横浜市立大学医学部	4名			東京医科大学	1名	
	計					247名	47名

○逝去　謹んで御冥福を祈ります。

松山みどり　日本女医会理事、大正十年卒三月十七日死亡　東京都港区支部

飯塚しゆく　昭和六年卒　神奈川県支部

東京女子医科大学　四一名

酒井　美智　宮崎　明子
陳　清珠　里見保子代
守安　慶子
渡辺　元子
若杉　倫子
石田　博子
サルミヤ・ウスマン
松本　陽子
伊藤　みさ
尹　栄淑
杉崎那美子
川上　則子
梅岡　智子
松岡　昭子
伊東　道
楠元　雅子
森内　幸子
三宅緋紗子
池沢　英子
下重　正子
柿本　圭子
木村　寿子
宮崎　朱美
深沢　慶子
渡辺　延子
滝沢　典子
横山　幸江
松本　達子
疋田　明子
斎藤　明子
今野　淑子
北海道大学医学部
佐藤　典子
大阪医科大学
永井　恭子
吉田　泰子
名古屋市立大学医学部　二名
西崎　韻子
二村喜久子
神戸医科大学
奥村　葉子
吉岡美奈子
伊藤よし子
八木　統子
岡　花世
吉川　弥生
吉田美千代
野村　貴子
小林久美子
一名
二名
一名

編集後記

★年四回の日本女医会誌発行の編集打合せのため日時を決めるのは仲々困難な事である。大学への研究のため○日はダメ。月はじめは保険の整理でダメ○曜日は英会話のレッスンの日でこれ亦ダメ。やっと原稿が集まり常任理事（庶務）三名集合出来たのは五月七日の午後七時―九時までであった。

★今回十三号会誌の森川氏の挿絵は第八回バーデン会議及第九回マニラ会議の折も二十余枚土産として持参し、売上げを国際女医会に寄附として、大いによろこばれたものよし。

★白黒では優雅な絵の味を表現出来ぬことが非常に残念である。

昭和三十八年五月二十五日印刷
昭和三十八年六月一日発行
編集人　福田　幹
発行人　日本女医会
発行所　東京都新宿区市ケ谷河田町19
印刷所　東京都港区麻布田島町63　日本女医会
福田印刷株式会社